

## 網走水試ミニレター

No.110 2022.8

- 人事異動により、北海道水産林務部水産振興課からきました 場長の津久井 潤です。よろしくお願ひいたします。改めまして網走水産試験場の職員をご紹介します。

場長 <u>津久井 潤</u>	総務課長 川村 啓介	主査（総務） 主査 専門主任	<u>越後谷 健</u> 久保 貴裕 中村 元
	調査研究部長 奥村 裕弥 研究主幹 田中 伸幸	主任主査（資源管理） 主査（栽培技術） 主査（資源増殖） 主査（水域環境） 研究職員 専門研究員	佐々木 潤 山崎 千登勢 秦 安史 <u>渡辺 智治</u> <u>平尾 真也</u> （新採） 中島 美由紀
	加工利用部長 宮崎 亜希子 （紋別庁舎）	主査（利用技術） 主査（加工開発） 研究職員 研究職員 研究職員	佐藤 暁之 — 濱川 祐実 崎村 祥太郎 <u>大谷 宗資</u> （新採）
	*下線は異動してきた職員		

職員一同、オホーツク海の水産業に貢献できるよう調査研究に取り組んでいきますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

- 今回は、当场が今年度取り組んでいる（今後予定している）調査研究の主な内容について、お知らせします。次回は、個別の情報を取り上げていきます。

[調査研究部]

- ◇資源管理関係
  - ・スケトウダラ、マダラ、ホッケ、マガレイ、ニシン、キチジ、サンマなどの重要な漁業生物の生態や資源状況の把握など資源管理に必要なデータを収集。\*今年度のオホーツク海におけるマガレイの予測漁獲量は、夏漁で昨年度と同程度、秋漁で減少を予測。
- ◇資源増殖関係
  - ・ホタテガイの成長と海洋環境のモニタリング。加工利用部と共同で、貝柱の歩留まりを予測。\*春先の餌料環境は、平年並みから良好で昨年同様に、歩留が不良になる可能性は極めて低いと予測。
  - ・ホタテガイの安定した稚貝生産技術の開発や単価が向上しているアサリの採苗や稚貝の減耗を抑制した資源造成手法の開発。
- ◇内水面資源関係
  - ・網走湖、濤沸湖、藻琴湖でのワカサギやシラウオなどの生態や漁獲物調査による資源状況の把握など資源管理に必要なデータを収集。
  - ・漁獲資源が減少している網走湖のヤマトシジミの着底稚貝や幼生分布状況など資源管理に必要なデータを収集。漁獲資源増大に向けて今年春から禁漁区による稚貝の資源保護及び産卵母貝確保の取組に協力。

[加工利用部]

- ◇高度利用技術
  - ・低温加熱による生鮮ホタテ風の食味を持つ貝柱加工品の製造技術開発や道産食材を活用した風味の優れたブレンドエキス調味料(ブリ荒節・魚醬)の開発。
- ◇品質管理技術
  - ・冷凍保存したホタテガイを用いた乾貝柱製造方法の確立(冬期間、加工場での作業が可)や道内で養殖されたニジマスの冷凍、解凍技術の開発による食感や味に優れた刺身商材としての供給。
- ◇依頼分析など
  - ・ホタテガイのグリコーゲンの分析や加工の相談・指導。

（網走水試 津久井）